

平成 2 7 年 度

川崎市水道事業会計決算概況

川崎市上下水道局

1 平成27年度 水道事業会計決算概況

(1) 総括事項

水道は、市民の快適な生活や産業活動の進展に欠くことのできない都市の基幹施設であることから、安全で良質な水の安定した供給に向けて取り組んでまいりました。

水需要については、人口が年々増加していることから、家事用等の使用は微増傾向にありますが、大口の使用では産業構造の変化により減少傾向にあるため、水需要全体で見るとほぼ横ばいで推移しています。

平成27年度は、「川崎市水道事業中期計画」に基づき、東日本大震災を踏まえた基幹施設や老朽化した管路の更新、浄水場の統廃合を含めた再構築事業等に取り組んでまいりました。このうち浄水場の統廃合につきましては、長沢浄水場において、老朽化した水道施設の更新、増強に当たり、施設の耐震化を図るとともに、太陽光発電の導入、雨水調整池の整備等を行い、このたび完成いたしました。

一方、財政面では、行財政改革等による経費節減を推進したことから、当年度純利益を計上しましたが、再構築事業に関する事業進捗の影響等により、単年度資金不足額が生じたため、累積資金を活用することで対応いたしました。

今後も、水道施設や管路の更新、耐震化等に伴う建設改良費が必要となりますが、これまでの累積資金の活用等で対応してまいります。

(業務の状況)

平成27年度末における給水人口は148万1,234人、給水柱数は83万2,694柱、普及率はほぼ100%です。

年間配水量は1億8,364万9,400^m、1日最大配水量は平成27年7月12日に記録した53万2,800^mです。

また、水道料金収入は税抜きで242億3,020万5,048円です。

(建設及び改良工事)

平成27年度の建設改良費の決算額は、前年度からの繰越事業費を加えて、116億133万2,041円となっております。また、27億6,437万8,356円を平成28年度に繰り越しました。

主な建設改良工事として、耐震管路等整備事業費については、老朽化した管路の更新や耐震化を図るため、配水管布設替工事等を施行しました。平成27年度決算額は39億8,700万2,266円となっております。

施設再構築事業費については、再構築計画に基づき、長沢浄水場第3沈でん池・活性炭接触池設置工事、生田配水池等更新工事等を施行しました。平成27年度決算額は43億5,673万2,922円となっております。

その他の建設改良費については、鷺沼配水所配水池耐震補強工事等の諸施設の改良工事を施行しました。

2 平成27年度 水道事業会計決算総括表

(1) 予算執行状況

ア 収入（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的収入	34,360,991,000	34,018,483,326	△ 342,507,674	99.0%
資本的収入	9,271,615,000	7,012,568,923	△ 2,259,046,077	75.6%
合計	43,632,606,000	41,031,052,249	△ 2,601,553,751	94.0%

イ 支出（税込額）

（単位 円）

科目	予算額	決算額	増△減	執行率
収益的支出	33,551,954,000	31,931,949,244	△ 1,620,004,756	95.2%
資本的支出	18,482,596,058	14,719,583,716	△ 3,763,012,342	79.6%
合計	52,034,550,058	46,651,532,960	△ 5,383,017,098	89.7%

(2) 収益的収支・資本的収支

ア 収益的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
収益的収支	34,018,483,326	31,931,949,244	2,086,534,082
収益的収支差額（税抜額） = 当年度純利益（△純損失）			1,373,099,581 円

イ 資本的収支（税込額）

（単位 円）

区分	収入	支出	収支差引
資本的収支	7,012,568,923	14,719,583,716	△ 7,707,014,793

資本的収入額が資本的支出額に不足する額 7,707,014,793円は、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額671,932,444円、過年度分損益勘定留保資金4,370,938,492円及び当年度分損益勘定留保資金2,664,143,857円で補てんした。

(3) 資金過不足額

ア 平成27年度単年度資金過不足額

（単位 円）

区分	金額	備考
当年度純利益（△純損失） (A)	1,373,099,581	<補てん財源等の内訳> ・当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額 671,932,444 ・当年度分損益勘定留保資金 5,263,041,852
資本的収支差額 (B)	△ 7,707,014,793	
補てん財源等 (C)	5,794,789,426	
単年度資金残額（△資金不足額） (A) + (B) + (C)	△ 539,125,786	減価償却費 5,583,619,636 固定資産除却費 483,081,256 その他非現金取引 7,467,310 長期前受金戻入 △811,126,350 ・退職給付引当金 △ 140,184,870

イ 累積資金過不足額

(単位 円)

区 分	平成 26 年度 末 資 金 残 額	平成 27 年 度 単年度資金不足額	平成 27 年 度 末 資 金 残 額
資金残額	9,419,326,312	△ 539,125,786	8,880,200,526
うち退職 給付引当金	4,898,715,390	△ 140,184,870	4,758,530,520

(4) 経営成績 (税抜額)

(単位 円)

科 目	金 額	科 目	金 額
営 業 費 用	29,062,326,986	営 業 収 益	28,040,641,728
営 業 外 費 用	1,188,994,038	営 業 外 収 益	3,557,452,000
特 別 損 失	11,312,831	特 別 利 益	37,639,708
総 費 用	30,262,633,855	総 収 益	31,635,733,436
当年度純利益	1,373,099,581	当年度純損失	-
前年度繰越 利益剰余金	16,278,154,348	前年度繰越 欠損金	-
その他未処分 利益剰余金変動額	-		
当年度未処分 利益剰余金	17,651,253,929	当年度未処 理欠損金	-

(5) 財政健全化法における資金不足比率の状況

会 計 名	資 金 不 足 比 率	経 営 健 全 化 基 準
水 道 事 業 会 計	— (資金不足となっていない)	20%

※資金不足比率は現段階での速報値である。

3 業務の状況

年度 項目	平成 27 年度	平成 26 年度	増△減(%)
給水人口(人)	1,481,234	1,466,395	(1.0 %) 14,839
給水柱数(柱)	832,694	819,659	(1.6 %) 13,035
普及率(%)	99.99	99.99	(0.0 %) 0.00
年間配水量(m ³)	183,649,400	182,847,400	(0.4 %) 802,000
1日最大配水量 (m ³ /日)	(7/12) 532,800	(7/12) 534,300	(Δ 0.3 %) Δ 1,500
1日平均配水量 (m ³ /日)	501,774	500,952	(0.2 %) 822
年間有収水量(m ³)	166,140,433	164,730,592	(0.9 %) 1,409,841
1日平均有収水量 (m ³ /日)	453,936	451,317	(0.6 %) 2,619
有収率(%)	90.5	90.1	(—) 0.4 P
配水管の延長(m)	2,401,921	2,399,827	(0.1 %) 2,094
水道料金収入(円) (税抜額)	24,230,205,048	24,067,178,623	(0.7 %) 163,026,425

